



『shining ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining ほいく』を活用していただけたら幸いです。

～「shining ほいく」お役立ちポイント～

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と話すときに『参考になる。』
- ② 他園で研修をどのように活用しているか知りたい時に『ためになる。』
- ③ 保育を見直したい時になるほど！と『気づきがある。』



## 「子どもの人権を守る保育」

令和5年6月19日

講師：子ども総合研究所 新保 庄三先生

☆初期対処が大切。しかし初期対処は、7～8割は失敗する。

失敗したと思ったら失敗した所に戻す➡失敗したところを直すことで良くなっていく

☆大きなトラブルは自園だけで解決しないこと。第三者に頼むこと。

自立するということは、依存する先をたくさん持つこと。相談先をたくさん持つこと。

自分で何でもやろうという人は自立していない人。

失敗した・・・



### ☆先生の素敵なお言葉です☆

「失敗して良いんだ！ 弱音を吐ける職場を作れ！ 頑張る保育園を作るな！

24時間良い子はいない。おうちで頑張っている子は保育園で弱音を吐く。逆もまたしかり。

良い子は家でしっかり甘えられている。わがままを言える保育園は良い保育園。」

「保育園は欠点を直す所じゃない 愛される存在だということを伝えてほしい。」

「保育士の仕事は命をつないでいくこと。」



☆子どもではなく、そこにいるのは人間 自分の親しい人に対して同じことをするか？と考えて行動する。

☆昨日よりも今日 今日よりも明日 考えることがより人権意識を高めていく

人権を学ぶとは話あうこと。



### <感想>

4～5人のグループを作り、幾つもの問題事例を考察し、意見を出し合い、学びを深めました。自分と違う意見も受け入れていくことの大切さを感じました。

新保先生の熱い思いと神ワードが胸に刺さる研修でした。

『不適切保育』～保育・教育の価値とリスク、深刻な事態（深刻事故）の予防～  
令和5年5月26日 講師：保育の安全研究所 掛札逸美先生

「日常生活や行事において、子ども一人ひとりの成長発達に合った保育をしていますか？」という投げ掛けとともに、保育活動における価値とリスクは常に天秤上にあることや、深刻事故や不適切保育はどのような時に起こるのか、また再発防止に向けた具体的な取り組みについて学びました。

職場での研修内容の活用 坂下三丁目保育園

保育中に起きた深刻事故や不適切保育について、自園でも起き得る事として真剣に捉え考えてもらいたいという思いから、以下の2つの事例を想定してロールプレイングを行い、その背景と予防策について4グループに分かれて話し合いました。

事例① 苦手なりんごを食べてほしいという思いから起こった窒息事故

- \*園内で定着している悪い習慣や保育士の間違った保育観がある  
(予防策)・おかしいと思ったら発信できる環境や関係作りが大切
- \*口腔内の機能に個人差があることをわかっていなかった  
(予防策)・食事形態を保護者と確認したり園内研修が必要
- \*これくらいなら大丈夫！という思い込みや経験が不足している  
(予防策)・経験の少ない保育士のフォローや研修などが必要

「りんご、食べたくない！！」  
先生役と子ども役でロールプレイング



グループ討議の様子

事例② グループ保育中の不適切な声掛けと置き去り事故

- \*トイレや着替えなどを一人で見る余裕がない  
(予防策)・クラス内で悩みを共有し、一人で抱え込まない  
・見通しをもった声掛けをして、時間と心に余裕をもつ
- \*子どもから目を離してしまった  
(予防策)・色々な状況が発生して一人で対応できない時もあるので声を掛け合って保育する



<園内研修を終えての感想>

- ・保育の楽しさとそれに忍びよる危険な一面は背中合わせであることを強く感じた。安全面に関する留意を怠らず、一人ひとりの子どもの状況に応じたより丁寧な対応を行なうことの大切さを再認識できた
- ・事例の背景や保育士の心理状態について話し合うことで、自分と違った視点や考え方を学ぶことができ、視野が広がり理解も深まった。連携を取りながら保育することの大切さを学んだので、困った時は声に出したり、自分も周りを見て気づけるようにしていきたい
- ・事例について、背景や予防策をじっくり話すことで普段の保育を振り返ることができ良かった。事故を防ぐためにも、思っていることを言いやすい関係作りを大切にしていきたいと思った

『通園バス置き去り事件について』

職場での研修内容の活用 赤塚保育園

狭くて鍵のかかった場所、部屋に子どもを閉じ込めてしまうだけならそれほど危険ではない。子どもが園やバスから飛び出して、外へ行ってしまおうほうが危険。



狭くて閉じられた場所 + 他の危なさ(気温と湿度など) = 危険  
「それでも狭くて閉じられた場所に取り残さない！」「危険な場所はなくすこと！」

\*自園の危険な場所を4グループに分かれて調べました。

- ・倉庫・トイレ・ホール・配膳室 → 鍵があり閉じられる場所
- ・本棚、オルガンの下・カーテンで塞がれている棚 → 隙間があり、子どもが隠れやすい

【予防策】鍵があり閉じられた場所  
・声出し、指さし確認、時間差でのダブルチェック  
隙間があり子どもが隠れやすい場所  
・隙間をなくす、ものを詰める